

### 3.初発の5大がんのUICC病期分類別並びに再発患者数

#### 初発の5大がんのUICC病期分類別並びに再発患者数の集計方法と定義

- ※ 5大がんについて、集計期間に入院治療を行った、初発患者はUICC(注2\*)のTNM(注3\*) から示される病期分類による退院患者数を、再発患者(再発部位によらない)は期間内の延患者数を示しています。
- ※ 「初発」とは、自施設において、当該腫瘍の診断、診断と初回治療(注4\*)、あるいは初回治療を実施した場合を指します。「再発」とは、自施設・他施設を問わずに初回治療が完了した後、自施設にて患者を診療した場合や、治療がん寛解後に局所再発・再燃または新たな遠隔転移をきたした場合を指します。
- ※ 病期分類は、がんがどれくらい進行しているかを意味します。stage0からstageIVまでありstageIVが最も進行していることとなります。
- ※ stageは一連の治療(注5\*)を決定する際に用いた病期分類を、術後の病期分類がなければ術前所見に基づくstageを選択しています。
- ※ 5大がんとは 肺がん、胃がん、肝がん、大腸がん、乳がんを主要5大がんとしています。

(注1\*)5大がんとは

肺がん、胃がん、肝がん、大腸がん、乳がんを主要5大がんとしています。

(注2\*)UICCとは

UICCはラテン語のUnio Internationalis Contra Cancrumの頭字語で国際対がん連合のことである。【引用元:UICC(国際対がん連合)日本委員会HP UICCとは?】

(注3\*)TNMとは

がんの病期の評価、分類法です。

T:原発巣の大きさと浸潤を評価します。N:所属リンパ節への転移状況を評価します。M:遠隔転移の有無を評価します。

これらを総合的に組み合わせて病期stage0～stageIVが決まります。

(注4\*)初回治療とは

がん(含転移巣)に対して、初めに計画された一連の治療(注5\*)および症状緩和的な治療(注6\*)を指します。自施設のみならず他施設での治療経過も含まれます。

(注5\*)一連の治療とは

治療計画再評価までの間におこなわれる治療を総括して指します。

例:手術後、化学療法4クールを行った後再評価、という事例であればこれら全てが一連の治療となり入院回数は問いません。

(注6\*)症状緩和的な治療とは

直接的にがん組織に対するものではなく、がんによる症状の緩和・軽減のために行われる治療です。

	初発					再発	病期分類基準	版数
	Stage I	Stage II	Stage III	Stage IV	不明			
肺がん	8	1	14	47	48	48	1	7
胃がん	18	13	20	24	12	40	1	7
肝がん	3	2	7	2	2	20	1	7
大腸がん	11	20	28	42	39	79	1	7
乳癌がん	12	17	4	2	1	9	1	7